

青少年 はちのへ



かがみ

青少年健全育成シンボルマーク



【発行】 第96号

八戸市教育委員会教育指導課

八戸市内丸一丁目1-1

Tel 43-2111 (内6112)

Fax 47-4997

Eメールshido@city.hachinohe.aomori.jp

平成30年11月16日号

## 子どもに寄り添って、子どもの夢を支える

### 「命の授業」～ドリー<sup>ム</sup>夢メーカーと今を生きる～ こしづか 腰塚 はやと 勇人さん

今年の7月に八戸市内の中学校4校と高等学校1校において講演会を開催した講演家である腰塚勇人さんの「命の授業」を紹介します。この「命の授業」の講演は、全国及び海外で1500回以上開催され、数多くのメディアに取り上げられるなど各地で大きな反響を呼んでいます。

腰塚さんは元中学体育教師で、2002年にスキーの重大事故で首の骨を折り、全身まひの状態になってしまいました。一時は、自暴自棄になり生きる意味さえ見失いかけていましたが、家族や周囲の支え、懸命なリハビリにより、奇跡的に回復に向かい4か月後に職場復帰を果たしました。事故をきっかけに人生観が大きく変化した腰塚さんは、2010年3月に教職を辞し、現在は自らの体験をもとに、命の大切さ、生きることの素晴らしさ、家族や周囲の人々の大切さを伝える活動を展開しています。

### ～市内中学校で開催した腰塚さんの「命の授業」講演会から～

自分の可能性を信じて夢の実現を目指すとき、それを認めて寄り添ってくれたり、応援してくれたりする人がいます。私は、あの事故があった時から、そんな素敵な人たちのことを「ドリー夢メーカー」と呼んでいます。いちばん身近な「ドリー夢メーカー」は、家族です。さらに、「ドリー夢メーカー」は、自分の中にも存在し、どんな絶望的な状況でも希望に変えてくれます。だからこそ、どんなに辛くて苦しいことがあっても、自分（の命）を傷つけてはいけません。楽しいときばかりではなく、辛いときや苦しいときには、家族や周囲の人々に助けを求めることが大切です。そのためにも、日頃から人に応援されるような行動を心がけましょう。

当たり前と思っているものの中に多くの幸せがあります。夢は今を生きる力になり、夢があるから強くなれます。特に、学校では「夢があれば困難あり、困難あれば仲間あり、仲間あれば感動あり」という場面がたくさんあります。自分を信じて、「自分の命の使い方」「命が喜ぶ生き方」を考えて生きることで、社会からいじめなどが無くなるものと考えます。私は、助けてもらった自分のこの命だけではなく、他人様の命に対しても「命が喜ぶ生き方」をしようとして心に決め、それを実践するための「5つの誓い」を立てました。皆さんも、人を傷つけるよりも、人を幸せにしたいという思いで、ぜひ、「自分の命を喜ばす行動」と「家族や仲間の命を喜ばす行動」をそれぞれ一つずつ決めて実践してほしいと思います。大人、先生方、そして自分の命の力を信じましょう。

大人が未来を担う子どもたちの「ドリー夢メーカー」として、温かい声かけをするなどして学校、家庭、地域社会で子どもたちの健全育成に取り組んでいきましょう。

#### 【5つの誓い】

- 口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう…
- 目は人のよいところを見るために使おう…
- 耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう…
- 手足は人を助けるために使おう…
- 心は人の痛みがわかるために使おう…



腰塚 勇人さん

# 笑顔に支えられ、夢を育むグッジョブ・ウィーク

今年で19年目となる「さわやか 八戸 グッジョブ・ウィーク」は、中学2年生を対象に全市立中学校で実施され、今年度はおよそ2000名が参加しています。数日間の職場体験や福祉・ボランティア体験を通して、豊かな感性や創造性とともに自律性を高め、望ましい職業観、勤労観を育むことを目的としています。

また「地域の子どもは地域で育てる」という視点で展開されるこの事業は、学校・家庭・地域社会の三者がそれぞれの役割を明確にし、準備段階からの連携が不可欠となります。事業の実施にあたっては、毎年、地域の方々の温かい御理解と御協力をいただいています。

ここでは、洋菓子店でグッジョブ・ウィークを体験した中学生の感想文を紹介します。

## この経験を生かして

八戸市立是川中学校2年 岡村 瑠奈

私の活動目標は、『自分から行動できる力を身に付けよう』でした。私は、普段から誰かがやっていたら同じようにやり、誰もやっていないとやらないといった優柔不断なところがありました。3年生になるまでに、「自分から行動できる力」を身に付けたいと思っていたため、この4日間の職場体験学習で成長できるように頑張ろうと心に決めていました。

先生方も親もいない場所での初めての仕事で、最初は少し不安でした。しかし、私の体験先のリーベシムラさんは、面白いおしゃべりで楽しませてくれる職人気質のお父さんと、明るく優しい娘さんが親子で営む、地域の方々に愛されている素敵なケーキ屋さんでした。温かい雰囲気で私たちを和ませてくれたため、すぐに不安な気持ちは消えてしまいました。

1日目は、器具を使用して計量する仕事をしました。たくさんの方を教えていただきましたが、話を聞きながらメモをとることがとても難しかったです。2日目は、接客時に、あいさつや返事の声のトーンを高くすることができました。3日目には、200個のマロニエパイと180個のチーズケーキを包装しました。気を抜くと包装紙が破けるため、集中して丁寧に包みました。4日目には、480個のペイクドチーズケーキを包装しましたが、前日と違って素早く丁寧に包むことができました。ケーキ屋さんの仕事は、細やかな仕事だけではなく、力仕事やオープンなどを使う暑い場所での作業も多いことわかりました。さらに、立ったままで同じ作業を繰り返すため、目や腰も痛くなりましたが、私たちの作ったケーキをお客様が嬉しそうに買っていく姿を見たときに、その苦労は一気に吹き飛んでいきました。

この4日間の職場体験を通して、社会のルールやマナー、礼儀について学ぶことができました。また、人との関わりの中で、笑顔とあいさつの大切さにも気づくことができました。特に、ご主人の「笑顔で元気にあいさつをすることで接客の9割が決まる」という言葉がとても印象に残っています。また、お客様が「おいしい」と言ってくれる姿を思い浮かべて作ったり、おいしく見えるようにたくさんの工夫をしたりするなど、お菓子づくりの奥深さについても教えていただきました。

この4日間で、やるべきことについて自ら考えて行動したり、話を聞きながらメモをとったりすることができるようになりました。自分が立てた目標を達成することができてとても嬉しく思いました。

このような貴重な体験ができたのも、職場体験に参加できるように私たちの知らないところで準備して下さった方々、さらに、初めて会った私たちに優しく一から丁寧に教えて下さった事業所の方々のおかげです。本当にありがとうございました。この短い4日間で得たものを、今後の生活に生かし、もっと成長した自分になれるように頑張ります。

○各校とも参加した生徒は、様々な体験の中で多くの発見や感動があったと思います。○  
どうぞ御家庭でもお子さんの体験談をお聞きください。



〔写真は、是川中学校と江陽中学校の今年度の活動の様子です〕